第６学年道徳学習指導案

６年１組　指導者　坂　本　哲　彦

研　究　課　題

お年寄りとのよりよいかかわり方を求めて、自ら自己内対話を繰り返すことができるようにするには、どのような支援をすればよいか。

単　元　　老い・病と向き合う
ー総合　介護体験学習を見つめようー

１　研究課題について

本学級の子供たちは、年度始めに「なりたい自分像」を掲げ、その実現に向け道徳学習を重ねている。総合学習や特別活動との横断的な単元による道徳学習も数度経験してきた。そこでは、例えばアメリカ人教師との具体的な交流や体験活動を通して、納得や実感を得ながら主体的に価値を追求する楽しさを感じてきている。このような子供たちが、日常生活との関連が薄くともすると敬遠しがちな老人介護を中心とする総合学習とそれに関連した道徳学習を進めることは、今まで以上に自分の人間性と向き合い、他と一層豊かにかかわる中で、道徳的価値の自覚を深め、生きて働く道徳的実践力を育成していくものと考える。

本単元は、老人福祉施設の幸楽苑とデイケアセンターでの介護活動や交流活動を企画実践していく総合学習と、５単位分の道徳の時間を総合単元的に扱うものである。総合学習での体験に支えられた子供たちは、お年寄りによりよくかかわるために大切な行動のあり方や気持ちの持ち方についての学習を進めていく。しかし、老人介護や交流は子供たちが考えるほど容易ではない。実践上の技術的な問題だけでなく、お年寄りをありのままに受け止めようとするがそれがなかなかできないという心情面の問題にもぶつかるであろう。それを乗り越えていくためには、子供自身が実践を支えている道徳的価値をしっかり見つめ、自身の行為や心情を常に振り返れることが大切である。そして、お年寄りとのよりよいかかわり方を求めて新たな課題を定め、進んで自己に問いかけ続けることができるようになることが必要となろう。

そこで、以下の支援を具体化し、課題の解明を図りたい。

・総合学習の様子を写真等で提示したり総合学習の実態を踏まえた読み物資料等を作成することで、自ずと自分の心情や道徳的価値観を表現できるようにする。
・横断的な単元全体で自分の心情や学びのよさを記録させ、自分なりの道徳的価値観やその構造が変化している様子を視覚的に捉えることができるようにする。
・必要に応じて友だちやＧＴとの意見交流や疑似体験の場を工夫し、自他の感じ方の違いを述べ合ったり、相手の立場に立つことの重要性を確認し合ったりできるようにする。
・振り返り活動を工夫し、次の活動の計画を示したり、新たな心のめあてを立てたりできるようにする。

2　目　標

○だれに対しても真心と思いやりの心をもち、相手の立場を尊重し根気強くかかわろうとする心情と態度を養う。

3　指導計画　総合９６Ｍ（３２時間）道徳１５Ｍ（５時間）　　が本時

総合学習との関連　　道徳の時間の学習活動

総合学習【幸楽苑に行って介護活動や交流会をしよう】

１次　　交流の計画を立てよう　　36M（12時間）

・幸楽苑・デイケアセンターのお年寄りと交流しよう。
・まず簡単な交流をして、これからの計画を立てよう。
・楽しい交流会ができたね。喜んでもらえないこともあったよ。

道徳の時間１　＊思いやり・親切 2-(2)　礼儀・真心 2-(2)　6M（2時間）

１回目の幸楽苑・デイケアセンターの訪問を振り返り、車椅子体験やシニア体験をすることによって、親切や真心についての考えを深める。

・これからの交流計画ができあがったぞ。うまくいくといいな。

２次　　できることを進んでやろう　　42M(14時間)

・早速２度目の交流会と介護活動の準備をしよう。
・デイケアセンターでは、もっと～ことを工夫してお年寄りに楽しんでもらおう。幸楽苑では、食事や飲み物のお世話をするよ。注意することは？
・今回も楽しかったね。２度目の交流や介護活動でも課題がいくつかあるな。

道徳の時間２　＊勤労・奉仕 4-(4)　3M（１時間）

読み物資料「人のために進んで」（自作）を読んで、主人公和夫の気持ちを話し合うことによって、人のために進んで働くことのよさについての考えを深める。

・幸楽苑やセンターの仕組みや福祉サービスの考え方について話し合おう。
・３回目は、シーツの交換やドライヤーでの髪のセットもすることができた。
・でも、思ったようにならないこともあって介護の難しさを感じたな。

道徳の時間３　＊思いやり・親切 2-(2)　3M（１時間）

読み物資料「老人ホームでの出来事」（自作）を読んで、登場人物の気持ちを話し合うことによって、思いやりのある行動についての考えを深める。

・職員の方とも連絡を取って計画を見直し、最後の訪問の内容を検討しよう。

３次　　喜ばれるように工夫しよう　　18M(6時間)

・よし、４回目の訪問では、今まで以上に一人一人の利用者の心身の状態に応じた接し方をするように心がけよう。私は、食事の介助を工夫するよ。

道徳の時間４　＊生命尊重 3-(2)　３Ｍ　（１時間）

読み物資料「生きる力をありがとう」（光村　一部改作）を読んで、命の大切さについての考えを深める。

・最後は、職員の人からもほめられて充実した活動だった。これからも・・

本時案　　**６年１組**

（１）ねらい　登場人物の迷いや悩みについて話し合うことを通して、思いやりの心をもち、相手の立場に立って行動しようとする心情を高める。

（２）学習過程

	支　援
「老人ホームでの出来事」を読み、課題を立てる　（１０分） 学習内容　・資料の粗筋　・自分なりの学習課題　・追求意欲 ・幸楽苑での活動の様子だね。～をするのは難しかったなあ。 ・話の夕子さんや夏夫君も僕たちと同じように悩んだんだな。 ・僕は、夕子さんが困っている気持ちがよく分かるんだ。 ・私は、ひろみさんがなぜ手をつなげなかったか分からないな。 ・僕は夏夫君の気持ちに応えられる助言を考えたいな。 ・学習課題を解決して、また「心の樹」を成長させたいね。 ・～さんも私と同じ課題だな。後で一緒に話し合いたいな。	○総合学習で迷ったり悩んだりした姿を映像や文章で紹介する。 ○自分なりに納得できる記述をした子供の表現物を紹介し心の変化を記録することのよさを広げ意欲的な振り返りを促す。
一人学びやグループ学びで学習課題を追求する　（１５分） 学習内容・思いやりのある行動のよさ、難しさ・友だちの価値観 夕子さん：・親切の押し売りは返って迷惑だ。・思ったようにならなくてもじっくり待つことも大切だね。・体や心の状態をしっかり見ないとね。 ひろみさん：・思わず手を引っ込めたのは、はじめてだったからじゃないかな。・実はお年寄りを汚いって感じたことがあるんだ。・だれにも同じように接したいな。 夏夫君：・職員の人は人の喜びが自分の喜びだと言っておられたよ。・気持ちを込めて接したいな。・楽しく過ごせるって大切だよね。 ・自分の考えを全体の場で出し合って確かなものにしたいな。	○自分なりの考えを持つ時間を保障した後、課題別に自由に意見交流する場を設けることで、自他の考えのよさや不十分さについて話し合うことができるようにする。 ○老人福祉施設の職員の方のビデオを見せ、介護する時に大切にする心の有り様について語っていただくことにより、介護の裏にある相手を思いやる心のすばらしさに気づかせる。
追求成果を出し合い、思いやりについて話し合う　（１０分） 学習内容・思いやりのある行動のよさ、難しさ・価値の関連 ・思いやりのある行動をすることは、思ったほど簡単ではないことが、改めて分かったような気がするよ。 ・何よりも相手の命を大切に思う気持ちと行動が重要だね。 ・見返りを求めないことや根気強く待つこと、真心で接して、常に明るく振る舞うことも思いやりにつながるんだな。	
総合や本時を振り返り「心の樹」を付加修正する　（１０分） 学習内容・人を思いやろうとする心情の高揚・今後の課題と意欲 ・相手の体や心の状態に合わせて行動することは、思いやりの基本だということを「心の樹」に書き加えよう。 ・次に幸楽苑に行くときには、～な気持ちを大切にしたいな。	○次回の活動の予定を確認させ、「もう一人の自分」からの気付きをもらう活動を仕組み、新たな心のめあてを決めさせる。

第６学年道徳学習指導案

６年１組　指導者　坂　本　哲　彦

研　究　課　題

お年寄りとのよりよいかかわり方を求めて、自ら自己内対話を繰り返すことができるようにするには、どのような支援をすればよいか。

単　元　　老い・病と向き合う
ー総合　介護体験学習を見つめようー

１　研究課題について

本学級の子供たちは､総合学習や特別活動と関連した横断的な道徳学習を経験してきた。そこでは、具体的な交流や体験活動を通して、納得や実感を得ながら、主体的に価値の追求ができた。このような子供たちが、ともすると敬遠しがちな老人介護を中心とする学習をすることによって、他の人々と積極的にかかわり、今まで以上に自分の道徳性を見つめながら、生きて働く道徳的実践力を身につけていくものと考える。

本単元は、老人福祉施設の幸楽苑とデイケアセンターでの介護活動や交流活動を企画実践していく総合学習と、５単位分の道徳の時間を総合単元的に扱うものである。総合学習での体験に支えられた子供たちは、お年寄りによりよくかかわるために大切な行動のあり方や気持ちの持ち方についての学習を進めていく。しかし、老人介護や交流は子供たちが考えるほど容易ではない。実践上の技術的な問題だけでなく、お年寄りをありのままに受け止めようとするが、それが思うようにできないという心情面の問題にもぶつかるであろう。それを乗り越えていくためには、子供自身が実践を支えている道徳的価値をしっかり見つめ、自身の行為や心情を自ら振り返ることができるようにすることが大切である。

そこで、自己評価活動活性化をねらう上記課題達成のために、以下の支援を行う。

■総合学習の様子を写真等で提示したり総合学習の実態を踏まえた読み物資料を作成したりすることで、抵抗なく自然に自分の心情や道徳的価値観を表現できるようにする。

自己評価の対象を明らかにさせるためである。これをもとに自己内対話がなされる。

■横断的な単元全体で自分の心情や学びのよさを記録させ、自分なりの道徳的価値観やその関連が変化していく様子を視覚的に捉えることができるようにする。

道徳的価値観は目に見えにくい。言語化することで、感じた理由・変化の様子などを振り返りやすくなる。この振り返りが自己内対話を促進する。

■必要に応じて友だちやＧＴとの意見交流や疑似体験の場を工夫し、自他の感じ方の違いを述べ合ったり、相手の立場に立つことの重要性を確認し合ったりできるようにする。

自己評価の新たな視点を取り入れさせるためである。いろいろな立場からの意見に触れることは、自分の価値観を見直す契機や観点となる。

■振り返り活動を工夫し、次の計画を示したり、自己内対話の相手を設定したりする。